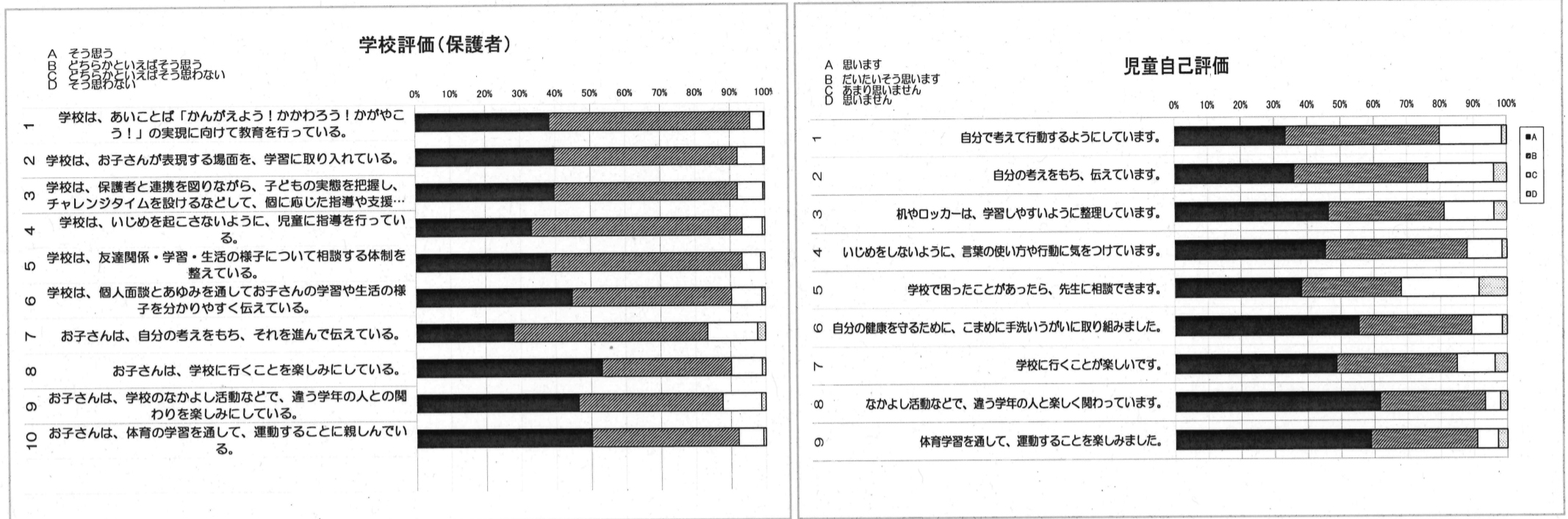


### 横浜市立上白根小学校の学校評価集計結果について

早春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。本年度も本校の教育活動にご協力ありがとうございました。  
さて、保護者の皆様に回答していただきました学校評価を集計し、まとめと課題について考察いたしました。この評価結果を今後の学校運営に役立てていきたいと考えておりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。



#### <考察>

##### ① 全体の傾向

保護者の方のアンケートを見ると、多くの項目でA「そう思う」B「どちらかといえばそう思う」をあわせて90%を超えるという結果となりました。ここ数年、学校として継続的に取り組んでいる「かんがえよう!かかわろう!かがやこう!」の合言葉を軸に捉えた本校の教育活動に多くのご理解をいただくことができたからと考えられます。

しかし、保護者アンケートの「お子さんは自分の考えをもち、それを進んで伝えている。」はA・B合わせて83%にとどまり、昨年度の90%に比べると低い結果になりました。また児童アンケートの「自分の考えをもち、伝えています。」はA・B合わせて昨年同様約75%で、他の設問より低くなっています。コロナ禍の中、子どもにとっては思うようにかかわったり、伝えあったりすることができないことで、経験を積ませる機会が減っていることと、保護者にとっては学校でのお子さんの姿を見る機会が減っていることで、よくわからなかったということもあったかもしれません。次年度もコロナ禍が解消されるわけではありませんが、相手意識をもった学習展開、表現する機会を増やす工夫をしていきたいと思えます。

子どもたちのアンケートで「学校で困ったことがあったら、先生に相談できます。」という設問では、A、B合わせて68%となり、すべての設問の中で最も低い結果になりました。困ったことがあれば安心して相談できる学校の体制作りと、相談しやすい関係性を築いていきたいと思えます。そのために、次年度も担任以外の教師が授業をする機会を作ったり、学年内で授業を分担して行ったりすることで、相談できる人を増やす体制を継続していきます。そして職員の研修なども行い、子どもとの信頼関係の構築に努めます。

また保護者の方の回答でも、AとBの割合を比べてみると、まだAの方が低い項目も目立つので、より充実した学校教育の実践と情報の公開・共有に努めていきます。

上記のことから、学校の体制や本校の子どもたちの抱えている課題や、改善策についてまとめました。

##### ② 考える・伝える・関わる力

表現する場を多く設定し、子どもたちが自信をもって表現できるように小さな成功体験を積み重ねていくことが大切なのではないかと考え、日々の教育活動を行ってまいりました。しかし、残念ながらまだ課題が改善されているとはいえません。表現を強制するのではなく、「自分の考えを伝えたい。」と前向きにとらえられるような支援をしていく必要があると考えます。

本校の子どもたちは「間違えることを怖がる」傾向があります。そのためテストなどでも無答が多くみられます。もちろん「間違えたくない。」と思うのは当然のことです。しかし、正解を見つけるという授業展開から脱却していかないと、正解にしか価値が見出せなくなってしまいます。様々な意見が出るからこそ、理解が深まります。それができるようになるには「安心して意見が言える環境」が必要になります。日々の学校生活において安心できる環境を教職員が作り上げられるように取り組む必要があると考えます。そのために考えに至ったプロセスを大切に、価値が高まるような支援をしていきます。

##### ③ 相手意識をもつ力

子どもたちは「なかよし活動などで、違う学年の人と楽しく関わっています。」では、Aの割合が60%を超え、A、B合わせると93%になり、異学年交流を楽しみにしている児童が多いことがわかります。6年生は「みんなが困らないようにするためには、どんな言葉で説明すればいいか。」「事前に何を準備しておけばよいか。」と、つねに相手意識をもって活動しています。また、「なかよしデー」という集会を行い、4~6年生が輪番でなかよしデーの企画・運営を行うようにしています。6年生の姿を手本に、5年生や4年生も相手意識をもって集会を行う姿が見られました。残念ながら、コロナの感染拡大によって後期のなかよし活動が通常通りに行えない状況が続きましたが、来年度もさらになかよし活動の充実を図っていきます。普段と違う集団なので、緊張感をもって参加する子もいるためか保護者の方のアンケートでは、若干低い結果となっています。本校では、関わる力を高めるために、なかよし活動などで日常的に関われる機会を意図的に作っています。ご家庭でも学級以外の友達との関わりの価値を伝えていただければと思います。

##### ④ 表現の場を充実させ、より開かれた学校を目指して

表現の場を充実させることで、子どもたちは経験を積みます。その経験の積み重ねが自信につながり、「自分の考えをもち、進んで伝える子。」に成長していくと考えます。そのため、依然コロナ禍ではあるものの、今年度より表現の機会を増やしていきたいと考えています。また、保護者アンケートに「授業参観ウィークで普段の子どもたちの様子が見られてよかった。」という意見がある一方、「平日だと参観できない保護者のために、土曜参観も行えないか。」といった意見もありました。教職員で検討を重ね、来年度は授業参観ウィークとは別に、土曜参観日を設定します。コロナ禍のため、参観形式については未定ですが、一人でも多くの保護者の方に子どもたちの学校での様子を見ていただける体制をつくっていきます。